東日本大震災
支援活動

くらしに笑顔お届けします
大阪いずみ市民生活協同組合

２０１１年7月１１日　配信

組合員参加の「ボランティアバス」を運行しました

みやぎ生協のコーディネートで、宮城県南三陸町に「ボランティアバス」を２回運行しました。

事前に開催（6/12）した**ボランティアバス説明会**には、７１名の組合員・職員の参加がありました。説明会では、「いずみ市民生協の支援の現状」「被災地の現状」「活動に参加するにあたっての注意点」などの報告を行いました。

ボランティアバス運行

ボランティアバスの出発に先立ち、出発式を開催。行きのバスでは、自己紹介を兼ねて、参加動機の交流を行いました。現地の活動後、帰阪してから、朝食を兼ねたふりかえりの交流会を開催しました。交流会では、グループごとに交流を行い、代表の方が発表を行いました。「現地の様子は、思った以上に悲惨だった」「被災者の方に声をかけることができなかった」「今後も継続した支援が必要に思う」などの意見が出されました。

第１回目

日　　程：6 月 17 日（金）～6 月 19 日（日）　現地活動：6 月 18 日（土）　10：00～16：00
参加人数：32 人（男性 20 人、女性 10 人、事務局 2 人）
支援内容：思い出プロジェクトの写真の整理、持ち主への返却支援

被災地で津波や家屋の倒壊によって流された思い出の写真や賞状を「水洗い」「乾燥」「整理」「展示」「持ち主への返却」をすすめる「思い出プロジェクト」のボランティア活動を行いました。

現地に到着後、「駐車場誘導」「会場誘導」「写真の返却支援」「写真の乾燥」などの任務に分かれました。家族の写真を探しに来られた方は、「家族の写真が３枚も見つかった」と、各任務についているボランティアに対

し、丁寧なお礼をしながら、帰られました。一方、ご主人を津波被害で亡くされ、そのご主人の写真を探しに来られた方は、時間いっぱい写真を探したが見つからず、「また、あきらめず来ます」とさみしげに帰られました。

＜参加者の感想＞

・写真をお返しするお手伝いをしました。被災者の方に、最初、どのように声をかけたらいいのか言葉を探すのが大変でした。写真が見つかった方は、本当に喜んでおられました。一方、写真が見つからなかった方は、かける言葉が見つかりません。精神的に非常に疲れた活動でしたが、少しでも多くの写真が、持ち主に返ってほしいと思いました。

第２回目

日　　程：6 月 24 日（金）～6 月 26 日（日）　現地活動：6 月 25 日（土）　11：00～16：00
参加人数：32 人（男性 19 人、女性 13 人、事務局 2 人）
支援内容：牡蠣（かき）の養殖場の土嚢（どのう）づくり

ボランティア作業開始の前日から、急遽牡蠣の養殖の復興が始まったことに伴い、志津川漁協で土嚢づくりを行うことになりました。

袋に砂利を詰め、結んで積んで行く作業は男女問わず大変な作業でしたが、いずみ市民生協も含めた総勢１００人近いボランティアが協力し、約１，５００個の土嚢が１日ででき上がりました。通常なら４～５日はかかる量だったということで、漁協のみなさまからもお礼をいただきました。被災者の方々と交流する機会は少なかったですが、産地のお手伝いができたことで充実したボランティア活動になりました。

＜参加者の感想＞

・ガレキの山の中で、「よみがえれ故郷、ふんばれ南三陸町」と書かれている標語を見たら涙が出そうになりました。被災されているにもかかわらず、魚港の方やみやぎ生協の方が、とても明るく迎えてくださったのが印象的でした。作業では、ほぼ初対面にもかかわらず、声をかけあったりしながら協力して、たくさんの土のうができ上がったことがうれしく思います。

岩手県にて、引越し等の支援活動に参加しています

６月６日（土）～７月１７日（日）の６週間。４名１組、１週間交替にて、のべ２４名の職員を派遣しています。

岩手県釜石市にある「釜石ボランティアセンター」「大槌町ボランティアセンター」からの支援依頼を中心に、被災者の支援活動に参加しています。

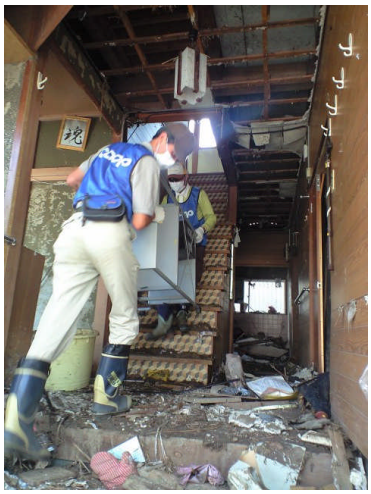
（主な支援活動の内容）

- 避難所から仮設住宅への引越し支援
- 倒壊家屋からの家具などの運び出し
- 被災住宅のそうじなどの復旧支援
- 土のうの片付け支援
- ガレキの片付け支援

その他、災害ボランティアセンターからの要請に従ってさまざまな支援活動に参加しています。

【派遣職員からの報告】

- 避難先と被災した自宅それぞれから新しい住まいへの物資運搬を行いました。（ご高齢のご夫婦の依頼）２階建て一軒家のご自宅は津波の被害にあい全壊しています。土足で入ることとなりました。仏壇の搬出に悪戦苦闘しましたが、とにかく傷つけないように運び出しました。避難先からの搬出は聞いていたよりも相当多く、トラック２台が段ボールと風呂敷包みで埋まりました。団地の階段をリレーで運び汗だくになりました。被災時の様子を伺ったところ、３階にいたが胸まで水に浸かったとのことでした。目の前の方々が無事に生きておられることが当たり前のことではないのだと実感し、ただの引越しではないと気を引き締めて残りの作業を終えました。今回携わらせていただいたご夫婦の転居後の生活がすこしでも穏やかなものになればと心から願いました。



倒壊家屋からの家具の運び出しの様子

- 町全体が壊滅状態の釜石市鵜住居町地区のガレキ撤去のオーダーに対応しました。見渡す限り３６０度のガレキをスコップと一輪車で人海戦術での撤去作業。指定された一角の作業に集中しているとやった気になりますが、ふと回りに目をやると見渡す限りのガレキの砂漠です。

ガレキの撤去作業の様子

岩手県にボランティアコーディネーターを派遣しています

日本生協連の要請に応えて、「ボランティアコーディネーター」として２名の職員を岩手県に派遣しています。（２週間交替で１名を派遣）

【主な活動内容】

・災害ボランティアセンターの業務支援

被災者からのニーズ受付、ボランティア活動受付、活動場所の安全確保、避難所への訪問など

・災害ボランティアセンターでの必要備品の管理および資金運用

・被災者ニーズの内容に合わせて、現地社協および行政機関との情報交換や、活動内容の報告・確認。

【活動実績】

（派遣期間）5/23～6/5　　（派遣先）陸前高田市
（派遣期間）6/6～6/19　　（派遣先）宮古市
（派遣期間）6/20～7/3　　（派遣先）大槌町
（派遣期間）7/4～7/17　　（派遣先）宮古市
（派遣期間）7/18～7/31　　（派遣先）大槌町※予定

【派遣職員からの報告】

災害ボランティアセンターでは、被災された方たちは非常に前向きに活動されておられ、明るさや元気を逆にいただきました。現場の状況だけを見て、悲観しているのは外部から来た人たちの方でした。震災当日の避難した時の話や、救助活動・避難所での生活など、さまざまなお話を伺いしました。心の奥に、さまざまな思いを持っておられるにもかかわらず、各災害ボランティアセンターを３ヶ月間休まずに運営されているのです。

私たちの活動も一ヶ月が経過し、支援の形が少し見えてきました。災害ボランティアセンター・現地の被災者の気持ちと行動、周囲の支援する NPO・NGO などの方たちの気持ちや行動に差がありますので、お互いの意見などを調整し、地域の復旧状況を見ながら各々をつなげていくことが大事だと感じています。

今後は角材や車などまだまだ地域には残っているものの、仮設も完成し入居も始まり復旧から復興に向かおうとしています。これから復興に向けの問題は、①被災者の心のケア（仮設住民と地域の方たちとのつながり）②雇用です。生協として何かお役立ちできることあればと思っています。

宮城県にボランティアセンタースタッフを派遣しました

７月５日～１１日の期間で、宮城県の災害ボランティアセンターのスタッフとして職員を１名派遣しました。

【派遣職員からの報告】

平日は、一日で約１０件のボランティアへの要請件数があります（土日は、ボランティアニーズが平日の２倍くらいになる）。約１５０人のボランティアが訪れ活動しています。ニーズ調査に出かけると、行政が入らないと手が付けられないことがあり、なんとかしたいのに何もできない状態が続いていることを知らされました。